
紺碧の瞳

氷野 雪夜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

紺碧の瞳

【Nコード】

N2828Y

【作者名】

氷野 雪夜

【あらすじ】

紺碧の男（偉大な英雄・・・の筈）は前世の記憶をなくして（憶えてたら、プチチート）並行世界、所謂「異世界」（と言っても全然環境が違う世界）に転生していた！？

それを知った男の故郷は、ちょうど破滅の危機に瀕していたし丁度良いやと「勇者召喚」をしたんだけど・・・?!

主人公最強系で作者のご都合主義てんこ盛りです。

苦手な方は、見ない方向でお勧めします！！！

第零話〜語り継がれた物語〜

今より遠い遠い、考えのつかないくらい遠い昔のお話。

紺碧の瞳を持った一人の男はこれから起こるである”コト”を憂いでいた。

「この世界は何処に向かうのだろうか？」

「……すいません、私はそれに答える”正解”を持っていません。」

「いいんだよ。……これは独り言だと思って欲しい。」

「それはっ!」

「ね？」

「……分かりました。」

「ありがとう。でも、お前がこのままでは俺がいなくなったらどうなるか心配だ」

「心配は無用です。あなたがどこかに行くときは私が最後まで付いて行くので。」

「……まさかのス「ストーカー」ではありません。従者です」……
「いや、俺全部行ってないから。」

「では、この話は終わりですね。もう居なくなった時の話はしないと約束してください。」

「……分かったから、無表情にこっちをじっと見ないで!?(
殺気がスゴイ)」

この後部屋は、殺気の凄まじさに入ってきた衛兵達で埋め尽くされたのは……。忘れたいな。(その後、衛兵達は特別訓練という名の地獄に連れて行かれた)

こんな締りのない日常を送るのは偉大な英雄になる筈の男。この場面を見たものはその余裕に安心し、男に愚痴られながらも笑っていた。

後に男を知るものは、若者達にこう言った。

「あいつはいつもふざけていた。でも、ここぞという時にちゃんと動けるやつだった。何よりも自分の魅力を理解し、利用した。けれど責任感も人一倍強く、自分が大切に思う人や直接的・間接的に巻き込んでしまった人は最後まで絶対に守った……。」

そして、男の話をした後は必ず何かを耐えるように顔を歪めてしまふ。

語られたことは素晴らしい事なのに、矛盾した態度をとる先人達は若者達の心に強く印象付け、男の偉業と共に語り継がれていった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2828y/>

紺碧の瞳

2011年11月16日23時36分発行